

技術の名称	再生栗石製造工(脱着式)		
開発会社名	株式会社古垣建設、ウエダ産業株式会社		
NETIS登録番号	登録済み:登録番号[]	未登録	
申請先の地方整備局	北海道開発局		
分類	〔レベル1:共通工〕、〔レベル2:構造物とこわし工〕、〔レベル3:その他〕、〔レベル4: 〕		
使用可能な工事の種類	構造物とこわし工(コンクリート塊、殻の発生するもの)		
比較対象とする従来技術	技術名称	処理施設への運搬・処理	
	選定理由	当該工法は、一般的な処理工法であるため比較対象の従来技術として選定した。	
その他			

評価項目			申請者記入欄			備考
大	中	小	従来技術のコスト	申請技術のコスト	従来技術との比較<結果>	
経済性	イニシャルコスト	積込み・運搬費、処分費	695,500円/100m3	153,200円/100m3	約78.0%向上	
	ランニングコスト		-	-	-	
	その他		-	-	-	
	トータルコスト		695,500円/100m3	153,200円/100m3	約78.0%向上	

評価項目			申請者記入欄			備考
大	中	小	現行基準値等	申請技術について実証により確認した数値等	従来技術との比較<結果>	
安全性 <small>労働安全衛生法上の安全性等は含まない。</small>	構造	破砕機(7t仕様)	-	・開口幅800mm 中央破砕力520KN 機械質量1,100kg	-	
		破砕方式	-	・バックホウシリンダー推力により、刃が閉鎖し圧砕する。縦破砕、横破砕を併用した破砕構造	-	
	施工段階 <small>(仮設工については施工段階の安全性等は含まない。)</small>	作業員の安全、第三者への安全	・「土木工事安全施工技術指針」の「第1章総則、第2章安全措置一般、第6章運搬工、第19章構築物の取りこわし工事」に記載の項目	・現行基準を守り施工	-従来技術と同等	
耐久性	物性	破砕刃の消耗	-	・破砕刃の減りが10mm以上で肉盛溶接(想定約600h/毎)	-	
	形状	動力源	-	・市場にあるバックホウ(山積0.8m3)に取付ける	-従来技術と同等	
	能力	施工能力	・バックホウ・ダンプトラック	・栗石製造能力48m3/日 数値は破砕前の体積	・日当り施工能力に限度がある	
品質・出来形	材料	とりこわし方法(積込運搬時/破砕時)	・w300mm*w300mm*t300mm以下	・厚さ w700mm以下	-従来技術と同等	
		作業	・積込機械+ダンプトラックで運搬処理	・作業操作に於いて熟練技術を要さない(バックホウの運転手であれば操作は容易)	・施工の難易度について従来技術と同等	
	完成物	・栗石 5cm~15cm、15cm~20cm	・うすっぺらなもの、細長いものであてはならない	・栗石 5cm~15cm規格内率95%、栗石 15cm~20cm規格内率70%	・再生栗石の使用用途によっては、ふるい分け作業が必要	
施工性	合理化	・栗石の調達	・購入	・栗石製造能力48m3/日 数値は破砕前の体積	・日当り施工能力に限度がある	
	現場条件	・作業場所の状況	・ダンプ搬出可能で有れば特に条件に左右されない	・機械設置面積15m程度あれば作業可能	・現場外へ搬出するにも積込み面積が必要ことから従来技術と同等	
	適用範囲	・適正処理	・「廃棄物処理法」の「第一章総則、第三章産業廃棄物、第四章雑則、第五章罰則、附則」	・現行基準を守り施工	・法に基づき処理するので従来技術と同等	
	自然条件	・天候	・特になし	・雨天時の視界不良、強風時等、良識の範囲で施工	-従来技術と同等	
	施工管理	施工管理	・ダンプの積載重量、運搬路の管理	・製造工程、構造が単純なので安定した製品が常時製造される	・作業半径が小さく単純作業なので従来技術より向上	
	難易度	習得度	・バックホウ運転手+ダンプトラック運転手	・作業操作に於いて熟練技術を要さない(バックホウの運転手であれば操作は容易)	・施工の難易度について従来技術と同等	
	周辺環境への影響	社会環境	騒音、振動	・騒音規制値85dB以下 ・振動規制値75dB以下	・騒音測定値79dB ・振動測定値52dB	・一般測定値にて従来技術と同等
作業員環境		作業員環境	安全の確保	・特殊運転手1名+普通作業員1名で施工可能	・運搬車両の往來が少なく済み、少人数での単純作業なので従来技術より安全性が向上	

その他	独自基準等の有無	技術指針、設計基準等	有(自社基準)
		積算基準等	有(自社実績による歩掛)
		施工管理基準等	有(自社施工要領書)
	その他		